

高山・市民の森 森林教室実施報告書

「森の散策と小枝の人形づくり」

令和元年 7月14日

- 1 実施日時 令和元年7月14日（日） 10:00～15:00
- 2 参加講師名 森林インストラクターしずおか
担当者 越智、杉山
アシスト会員 青野、内野、小久保、小嶋、高橋、佐野、早川、大石
- 3 参加者 11人（大人 6人、子ども 5人）
- 4 概要

【森の散策】

今どきの季節らしくそぼ降る雨が予想される空模様でした。しかし、標高600mを越える高山市民の森では、霧は出ているものの雨は霧雨程度で雨具なしでも大丈夫な天気でした。



今日参加してくれた方は、3歳から6歳までの子供5人を含む4家族11人。今日は無理をしないで、「森の恵み」周辺をじっくり歩きました。まず始めに参加者に強く印象に残るだろうミズメの香り体験。予想どおり「ン？」そうですね、お馴染みのサロメチールの香りです。樹木に興味を持ってもらうに最適な樹です。ヒメジョオンかと思ったらハルジオンが咲いていました。その違いと食べられることも話しました。クリとクヌギが近くにあるので、葉をよく

観察してもらって鋸歯の先まで緑がクリ、色が抜けているのがクヌギと覚えてもらいました。

季節は7月。二十四節気の夏至、七十二候の半夏生（はんげしょうず）の頃に花をつけるハンゲショウが丁度見ごろとなっていました。葉の表面が白くなることの意味やハンゲショウという名の由来を話しましたが、実に絶妙な自然の営みに皆さん感心していました。この季節、葉の色を白くするもう一つの植物マタタビがしっかり若い果実とたくさんの虫こぶをつけていました。果実よりもこの虫こぶを乾燥させた物が木天蓼といって価値があることを話しました



が「そうなのかなー？」と不思議な様子でした。今度は、キハダです。幹の表面を少し剥いで名の由来である黄色の内樹皮を見てもらいました。これは文句なく納得、ついでに舐めてもらって苦い薬であることを実感してもらいました。「森の恵み」周辺には、この辺りでは見られないカエデが植栽されています。メグスリノキとヒトツバカエデです。これでもカエデの間であることを葉が対生につくことや果実を見ながら理解してもらいました。



可愛いヤマホタルブクロが咲いています。花に蛍を入れて遊んだそうですが、今では実感はわからないかも？ 高山の池周辺では、モリアオガエルが鳴いています。卵塊もまだ残っていました。その一つがミズバショウの葉の上に落ちていて、その中には3mm程度の小さなオタマジャクシがたくさん泳いでいました。子供は、葉をゆすって池の中に落としてあげました。「これで泳いでいけるね。」でも、アカハライモリに食べられちゃうものいるけど・・・。

この辺りには、クロモジもたくさんあり、香りを楽しんでももらいました。またミツマタの枝の分かれ方を見てもらって名の由来を実感してもらいました。中間展望台からヤッホーの声、池の子供がヤッホーと答える、そんなやり取りが楽しいです。森の中は、モリアオガエルとともに鳥の鳴き声が一杯。特にこの季節、ここに必ずと言っていいくらい渡って来て、いい鳴き声を聞かせてくれるクロツグミ。その声を聴きながら「森の恵み」へ戻りました。いい香りや苦い味、不思議な色を変える葉っぱなど楽しい刺激を一杯感じた森の散策でした。



【小枝の人形作り】

事前に集めた、サクラ、リョウブ、シラカバなどの枝やカラマツやテーダマツのまつボックリ、ドングリ、サルオガセなどを使って人形作りです。初めに見本を見せ、作り方の概要を説明し、自由な発想で見本にとらわれない人形作りをしてもらいました。材料は、ふんだんにあります。さあ作りましょう。



木を切るのはお父さんやお母さん、「あれをここにくっつけて、これをここにと。」子供はあれこれ親に指示監督役。小枝を組み合わせて面白いポーズの人形や、マツボックリでツリーを作ったり、ロボットみたいなものを作ったり色々です。色をカラフルに塗ったり、リボンで飾ったりナイフで木を削ったりその表情はみんな真剣です。葉っぱについていたのでしょうか、尺取虫が子供の手の上を歩いています。でもへっちゃらです。いろんな材料を駆使し、柔らかい子供の発想で大人には思いつかない物が出来上がっていきます。見ていて楽しくなってきますね。



誰かが言ってました。見本より子供たちの作品の方が秀作だって。確かにそれは言えます。そんな作品の数々を紹介します。

(作品介绍)



(杉山、記)